

令和4年度 第1回徳島県総合教育会議 会議録

日時：令和4年8月31日（水）13：30～14：55

場所：徳島県庁3階 特別会議室

1 開会

（司会進行）

<村山部長>

本日はお忙しいところ御参加いただきありがとうございます。ただいまから令和4年度第1回徳島県総合教育会議を開催いたします。本来であれば本日御参加いただいております方々を御紹介させていただくところですが、時間の都合によりお配りしている名簿と配席図での御紹介とさせていただきます。それでは、まずはじめに飯泉知事より御挨拶を申し上げます。

（あいさつ）

<飯泉知事>

本日は徳島県総合教育会議開催をいたしましたところ、教育委員の皆様方には大変お忙しい中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。さて、コロナ禍ということで、今は第7波の真っ最中ということでもあります。もう間もなく新学期を迎えることとなります。すでに8月25日から順次、新学期を迎えているところではありますが、9月1日から全体的に新学期スタートになるところでもあります。そこで、今回の感染状況、知事会から国に緊急事態宣言、あるいはまん延防止等重点措置、それ以外の法律に基づき、知事がそれぞれの都道府県の感染状況に応じて発することもできる要請「BA.5対策強化宣言」、こうしたものが制度化をされたところでもあります。

徳島におきましては、ちょうどお盆までの間は全国的に感染状況を少なく抑えられたところではありますが、なんとといっても7月の三連休、そして夏休み、お盆。この四国でも24年ぶり、徳島としては51年ぶりとなる四国インターハイ、そして徳島県が幹事県ということで、多くの高校生アスリートの皆さん方をお迎えし、そして2年前には中止、そして昨年は無観客、高校は3年しかないわけでありますので、今年3年生の皆さん方にとってみると、もし今回無観客あるいは中止っていうことになってしまいますと、高校3年間一体何だったんだろうか、こうしたことになっているわけでありまして、四国四県それぞれの御意見はあったところではありますが、何とか有観客で原則行っていこうと、四国総体を行わせていただきました。そして7月23日から8月23日まで、無事終えることができたところでありまして、そうした意味では、高校生の皆さん方にも日頃からこれからどんな困難があったとしてもチャレンジ精神に基づいて、そして頑張っていたいただいと。そして我々行政・大人がしっかりバックアップする。我々の方が逆にチャレンジをしないというわけにはいかない。そうした意味ではそれぞれ高校生アスリートの皆さん方にとってみても、そうした今後の方向性、スポーツというだけではなくて、今後の方向性、こうしたものをある程度体感をしていただくことができたのではないかと、このように思うところでもあります。

しかしこの民族大移動とも言われるお盆。当然あれだけの感染が出ていた東京、大阪、あるいはそれぞれの周辺の首都圏、近畿圏、人が行き交うわけでありますので、当然その後、大きな感染の波が来るということになり、今徳島としては大きな感染の波が来ているところですが、「BA. 5対策強化宣言」、8月1日から準備を始めておりました。特にBA. 5の名前がついているわけでありますので、BA. 5への置き換わり、これをゲノム解析、従来は国立感染症研究所に検体を送りまして、約一ヶ月間かけてその結果を得ていた。つまり一ヶ月前のものが分かるということで、どうしても対応に後手を踏む可能性が高いということで、次世代シーケンサー、こちらを入れさせていただきました。二週間、今では9日間でこの結果を出すという形をとらせていただいております。ちょうど8月17日、この段階で約八割の検体が置き換わったBA. 5へということもありまして、対策本部会議を開催し、この「BA. 5対策強化宣言」発動を決めさせていただき、しばらく国との協議が必要となりますので、8月19日から発動させていただきました。県民の皆さま方へ、事業者の皆様方へ、そして県として、大きく三つの項目に分けて、そしてスタートを切らせていただきました。実は教育関係では、この中に一点、新学期を控えているといった観点でそれまでの間に教職員の皆様方の検査、これを徹底していこうではないか。できれば二回の検査、こうした点をお願いをするキットなども配らせていただいたところでもあります。

しかし、やはり新学期を迎えるにあたってお盆明けの全国的な感染拡大、こうした点で、やはりもう一段踏み込んだ対策が必要になるであろうと。実は多くの県民の皆さん方からも学校に行かず、こうした点について控える、怖いんだ、ただその場合、学びの保障がどうなるんだ、こうした御意見もいただいているところであります。今回「BA. 5対策強化宣言」をちょうど敬老の日を含む三連休、実は9月には三連休が二回あるわけなんです。前半の三連休明けの9月20日まで延長を決めさせていただいたところでもあります。そして、この中では当然新学期対策、これをしっかりと視野に入れる、その対策を入れさせていただいております。特措法第24条第九項に基づく、法律に基づく要請をさせていただきまして、生徒さん御本人はもとよりのこと、同居の御家族の皆様方に体調の変化があった場合には、登校登園の自粛を求めさせていただいたところでもあります。ただ、当然のことながらそうなった場合に学びの保障をどうするのか。ここが、大きなポイントとなるところであります。1人1台端末GIGAスクールをより一層活用する。確かに県立学校では、大分これが出来上がっているところなんです。小中学校におきましてはそれぞれやはり差があるということが言われております。そうした点、例えば家庭内にWi-Fiが入っていないとか、そうした場合に紙媒体で対応するとか様々な工夫はなされているところであります。これを機会に学びの保障を一段踏み込んだ形をとっていただきたいと、県教育委員会の方から市町村教育委員会などにもこうした要請をさせていただいているところであります。その新学期を迎えて、より一層の感染拡大を防ぐとともに学びの保障。これをしっかりすることによって、登校登園自粛、こうしたものがスムーズに行くような形で要請をさせていただいているところでもあります。

今日は徳島県の教育大綱について今後の新たな大綱策定に向けて、皆様方と様々な形で御提言をいただくこと、御期待を申し上げているところであります。コロナを中心に申し上げましたので、今回の改訂の背景につきましては、様々な御意見を賜る際に申し上げ

ていきたいと思ひます。それでは今日はお時間の許す限りどうぞよろしくお願ひを申し上げます。

(司会)

<村山部長>

それでは議事に移ってまいります。これからの議事進行については知事にお願ひいたします。

<飯泉知事>

それでは早速ですが、次第に基づきまして、議事を進めさせていただきます。まずは事務局の方から今申し上げた徳島教育大綱、その検証につきまして説明をさせていただきます、その後、意見交換を行えば、このように考えています。それでは事務局の方からよろしくお願ひいたします。

<事務局>

事務局より「資料1」に基づき、概要説明。

<飯泉知事>

ありがとうございました。それではさっそく議事の意見交換、こちらに移って参りたいと存じます。それではただ今の説明についてを含め、徳島教育大綱の検証につきまして、お席の順に御発言をいただければと思ひます。それではまずトップバッター、岡本委員さんよろしくお願ひいたします。

<岡本委員>

私もインターハイの様子をYouTubeで拝見して、素晴らしい若者の力があることに、本当に感銘を受けました。やはり子供たち若者たちは、徳島の宝、徳島の大切な人財でありますので、子供たちが本当に輝ける徳島になっていけばいいなと思っております。様々な取組を拝見いたしまして、非常に素晴らしいことがたくさんなされているなあと思う反面、やはりこれは温度差があって、全ての学校でそうであるかということ、違うところもあるかと思ひます。そういう部分をきちんと検証して、これからの教育に生かしていかなければいけないなと思っております。以上です。

<飯泉知事>

ありがとうございます。仰るようにこの温度差というところですね。なかなか強制でやるという形にはなりませんので、それぞれの置かれた状況というものがあるところですので、そこをどうやっていくのか、トップを引き上げていって、全体を引き上げるのか、いやそうではなくて一番遅れているところを引き上げる、ボトムアップしているのか、あるいはそれをハイブリッドで行っていくのか、様々な手法、あるいは分野に応じてどっちがいいのか、こうした点も選択をしていかなければならない。でも、何よりもやはり現場の声が一番重要ではないかと思ひますので、大変貴重なご示唆いただいたところでありま

す。ありがとうございます。それでは次に河野委員さんよろしくお願いします。

<河野委員>

先ほど岡本委員さんも仰いましたけど、インターハイ、私も開会式に参加して、阿波おどりも太鼓も、みんな高校生だけであるということを最初知りませんでしたので、高校生の力っていうのはすごいなあと感じました。インターハイをやるかどうかっていうのは、やれる方法を考えてやるっていうのがもう今の流れだろうと思います。阿波おどりにしてもそうですし、いろいろ問題があるかもわかりませんが、いろいろなことに対応してやるということで非常に良かったと思います。

教育大綱も本当にいろんなことがあってどう検証していくか、評価していくかというのは本当に難しいところだと思うんですけども、それぞれの分野で、各指定校とかいろんな取組を熱心にされている学校があるんだなと思いました。今後は、やはり教員の働き方改革について、部活動が今後、地域移行ということも、スポーツ庁から提言も出ているように、そういったところの流れっていうんですかね、本当に部活動を地域でやっていけるのかというところが、私は体育の教員として部活動に関わった分、今後の活動状況を心配しているところです。生徒との関わりとか、そういう面が地域移行して、学校現場と地域の関わりとして本当に成り立つのかなと、うまく成り立たなければいけないんだろうなと思うんですけども、その方法を模索しながらやっていかないといけないので、これも時間がかかるのかなと思いました。昨日スポーツ協会の会もあって、他の競技団体の人とも話し合ったんですけど、やっぱりそういう部分で、今後の対応というのは心配している方が多いなと感じました。部活動の地域移行は非常に大きい問題であり、今後の徳島の教育にとって大事な部分かと思っておりますので、よろしく願いいたします。

<飯泉知事>

ありがとうございます。今お話ありましたように、このたびの四国インターハイ総合開会式ですね。7月28日に開催をされて、秋篠宮皇嗣同妃両殿下御出席の下で開かれたということで、実は秋篠宮皇嗣同妃殿下、いろいろな御下問に対しては、榊教育長さんが真後ろに立ってお答えをされている。その後ろに私がいたんですけども、今の河野委員さんの言われたとおりで、(総合開会式には)200名が参加していたんですが、プロの方はどのぐらい入っておられるんですかっていう御下問だったんですよ。そのぐらいの完成度で、実は一人も入っていません。全部、高校生ですという話をされたところ、びっくりしていましたね。この予兆っていうのは、ちょうど一ヶ月と少し前にアスティとくしまで本番さながらにランスルーを一回やって、その時に総合プロデューサーである住友紀人さんからもう十分、一ヶ月以上前だけど、出来上がってますよと。さらにその一ヶ月間と少し、この完成度を高めていくと。こういったお話もいただいたところでありまして、生徒の皆さん方に激励をさせていただいたんですけどね。こうしたことのように、やはり高校生の皆さんっていうのは一番伸びしろが大きい、そして本当に素直にプロの皆さん方の御指導、もちろん住友さんが多くの皆さん方を連れて来ていただいて、日本のトップクラスですね。それを純粋に受け入れて、そして見事な完成度に持っていく。やはり機会であったり場であったり、あるいはそれを指導をいただく皆さんも、こうした点が非常に重

要になってくるんじゃないのかな。そして何よりも自分たちだけでやる。つまりプロが、例えば中に入ってくるっていうのは普通のパターン、よくあるんですね。するとそこに頼っちゃうんですね。そこばかりではなくて、今回は最初から高校生だけでやるということなので、どこを見る必要はないわけです。自分たちがやらなきゃなんだから。ただ、全体の取りまとめて、その中のリーダーというのがあるわけですから、そのリーダーの掛け声の下しっかりやっていくと。一人一人が主役。ここがやはり、高校生の皆さんにとってみると粹に感じて、そして本当にプロさながらに演じていただけると。実はあの中に太鼓の部分があったんですね。これもLEDスクリーンの日本で最初に、NHKがやったことで、それを取り入れているんですが、実は普通スクリーンの後ろで何か演じてるとスクリーンの陰になってシルエットでしか出せない演出になるんですが、LEDスクリーンというのは、例えば吉野川の映像を映していて、太鼓が鳴っていきなり反転させると全部それが見える。つまりシルエットじゃなくて、まさにもうスクリーンとして出てくると。こうした技法も使わせていただきました。そして国府支援学校の皆さん方の太鼓だったんですよね。こちら驚いておられたんですね。やはりそうした支援学校の皆さん方も、あれだけの林英哲とか有名な世界の人もおるんですけどね。そのプロの演奏さながらだった、服装もそうなんですけどね。ということで、やはりそれぞれの皆さん方がやっぱりどこまでも限らない能力、これを発揮することができる、非常に素晴らしい、そうした場になったのではないかなというふうに思っております。

それから今、河野委員さんから大変重要な学校の先生の働き方改革。実はこれが今一番課題になっているんですね。全国で今、教職員のなり手が非常に昔に比べると少なくなっているということなんです。異常に教職の場が大変だ。忙しすぎる。自分の時間が持てない。あるいは向上していくための学びの時間が取れない、こうした御意見がよくある。その中の一つとして、やはりこの部活動、実は事故なども一番多いのが、この部活動の部分ですね。部活の顧問の先生が結局マイクロバスの運転をして、監督もそうなんです。結果、教職をやった後に遠征に行く。ほとんど寝ないで運転をして事故を起こしてしまうと、こうしたことがよくあって、こうしたことをきっかけとなって働き方改革、これを受け皿として、何とか地域移行できないだろうか、こちらプロを雇うという考え方はもちろんあるわけなんです。やはり地域での育みという教育の原点。こうしたものを考えると、なんとか地域移行できないだろうか、総合型スポーツクラブも今、全国全県下でも出来つつある。ただ、ここも実は岡本委員さんも言われるように、差があるんですね。例えば鳴門のように非常に盛んにやられているところであれば、地域移行したとしても割とすんなりと、逆に総合型地域スポーツクラブの皆さんにとってみると、新たな活躍の場ができるということで、これをまえまへの形になるんですが、ないところに移行する場合は受け皿が、まさにない。どうしていいか分からない、まさにお話のとおりということで、スポーツ協会の中でも当然、これが各競技種目で話題になったということになります。ですから、このところもどんな形でやっていくのか、あるところはそれを使う、そうでないところは核となる、いわば一部誘導していくんですね。場合によってはプロであったり、そのOB・OGであったり、こうした皆さん方に間を繋いでいただく、これも当然あり得る。やはりプロをつくるというよりは、学校教育その一環としてやるといった観点の視点を外してしまうと、元も子もなくなってしまうということがありますので、まさにこれが今後の、

大きな課題。日本の課題になってくることだと。しかし、これをやりとげないと、いわゆる教職のなり手がますます減ってしまう、過重労働から解放されないということになりますので、ここは、スポーツ協会を挙げてですね、そうした対応というの、ぜひお考えをいただければと思います、ありがとうございます。それでは次に三木委員さんよろしくお願いいたします。

<三木委員>

様々な取組を、確実にされてるんだということを改めて見させていただいて素晴らしいなあと思っております。始めたからといって、何事もすぐに成果が出ることばかりではないので、時間がかかることもあると思います。できていないんじゃないかという意見をたまに言われたりすることもあるかと思うんですけども、そんなことないんだという説明をしていただき、ただ、そういう意見も踏まえながら、引き続き推進していただけたらと思います。また、知事が最初にコロナの第7波のことを仰ってたんですけど、これからの時代はコロナに限らず、いろんな感染症が襲ってくる時代になってしまっていると思いますので、GIGAスクールの更なる充実ということで、感染症が起きたからということだけでなく、タブレットの授業というのは、やはり慣れが必要だと思いますので、普通の授業の中に取り込んでしまってもいいのではないかなと思います。声の出し方や、教材の見せ方、黒板の見せ方っていうのは、対面とタブレットでは違うと思いますし、いろんなことが起こった時の対処の仕方などについては、慣れるというか、訓練、練習していくことが必要だと思います。あと、人材不足という話もされてたんですけども、私が一番思っているのは、いじめ問題のことで、現場の先生方は、本当に力を尽くしてやってくださっていると思うんですが、人手の足りなさでどうしようもないところもあると思うので、例えば、先生ではない外部の方がたまに学校を見回るといようなことができないかなと思っております。大勢の人や子供たちをパッと見て、どんな感じかなっていうのを見分けられるような、警察OBの方であるとか、そういう経験を積んでいらっしゃる方などに、学校現場に少し来ていただくといことができるようになったらいいのではないかなと思っております。今回の趣旨とずれてしまっているかもしれませんが、このようなことを思いながら聞かせていただきました。

<飯泉知事>

ありがとうございます。確かに今、三木委員さんがおっしゃったように、ICT教育も普段から当たり前にしちゃう。やはり教育の現場でもそうなんです、一番重要なのは普段使いなんですよ。今はその学びの保障ということで、たまたまコロナ。GIGAスクールが先にあったんですけど、令和元年度に私が会長で、全国知事会の場、政府主催のそこで時の安倍総理に申し上げて、実はOECD諸国、俗に先進国と言うんですが、その中で日本が最低だった。韓国も含めて、1人1台型端末ですね、日本は3人で1台ということで、文科省の方が何度も財務省に予算要求したんですけど、ところがそんな金ないと、まだコロナの前ですよ、ないと言われて蹴飛ばされた、そこで目下の事務次官以下が私のところに来ました。会長、政府主催の全国知事会で何とか言ってくれませんか、安倍総理に。それは確かに由々しき事態ですねと、その当時DXという言葉もなかったんですけどね。

それはやはり不可欠だから言いましょうとって、最初の挨拶、これはカメラが写っているときなんですよ。安倍総理が挨拶をされて知事会長として挨拶した時に、2分半しかないんですが、最後の30秒で実はこのGIGAスクールのお話をさせていただいて、少なくともこれから情報、ICT先進国、これをめざす日本として教育の場ではこれでは安部総理、ちょっと心許ないんじゃないでしょうか。こう言ったらね、その場ですぐやろうと言ってくれた。これでポーンと4500億ついたんですよ。それが今度、年が明けてコロナ。令和2年1月30日、ダイヤモンドプリンセスからということできなり緊急事態宣言、そして学校を閉めましたよね。そのとき問題になって、このGIGAスクール、これを進めていこうと言って、またお金がついたというところから始まったということで、実際には普段使いをする余裕なく緊急事態になっちゃった。ということでどうしてもタブレット端末ではその学びの保障をどうするかって話なんですよ。でも本当は違うんですよ。普段使いをしていて、あれをいざという時にも使って、じゃあよりどんなことをしたらいいんだってということがあって手を入れる。逆になってしまった。普段使いでないところから始まって、普段使う、考えるということなんで今差が出るという、先ほど岡本委員さんの話になってしまった。ということです、ぜひこの普段使いで徳島の場合は日本で最初にこの光ブロードバンド環境を活用して、義務教育は全国だったんですが、高校、特別支援学校高等部、公私を問わずということになって全部やったんですよ。そういった形がありましたので、我々としてはそうしたものの、教育委員会でもそうした対策の、いわゆるタスクフォース、こうしたものを動かして、どうやってこれを普段に使っていくのか、また他よりも一歩二歩進んでやってきたってことがあって、進めているんですけどね。それもなかなかやっぱり義務教育の世界では市町村が中心になりますので、少し差が出てしまうということがありますので、これからのポイント、普段使いといったものを教育委員会の方でも、そして市町村教育委員会の方でも進めていただければと、ちょうど今まさに、大きなところで、先ほど「BA. 5対策強化宣言」新学期を睨んだといった場合には、やらざるを得ない世界になってきております。

それから二番目のいじめの問題、外部のってというのは少し外れたってのも実はこれ本道、ど真ん中なんです。つまり今学校の先生方が働き方改革の中で、先ほど、スポーツの話が出たんですが、それ以外でも今大変なんです。テレビのトレンドドラマ、スクールロイヤー、あれは学校に法律家、弁護士さんを入れるっていったって様々な、例えばいわゆる保護者の皆さん方、PTAの皆さん方とのトラブル、地域とのトラブル、あるいはいじめ問題、こうしたものを法律の観点から、いきなり警察を導入ということではなくてやっていこうと、まさに外部人材なんですよ。ということで、スクールロイヤー制度っていうのは今やもう当然、それを導入していこうという話にもなってます。

ただそれ以外の部分の方が本当は大きいんですよ。そういった揉め事が無い場合でも、外部人材を色々入れる。例えば、そのICT教育といった中で、今小学校で教科としてプログラミング教育っていうのが入ってきたんです。学校の先生、教職取る時にそんな勉強してないわけです。趣味でやる、あるいは自分が大学で違う分野でやる、これはあるんですよ。で困ってる。今どうしているかという、そのサポート役としてシルバー大学校、その大学院を出て、ICT講座で資格をとった皆さん方を中心に、学校に行ってもらってるんです。それでプログラミング教育、実はそれが非常に評判がいいです。そうした皆さ

ん方もアクティブシニアですから、小学校の生徒ってお孫さんみたいなものっていうので楽しい。それで子供さんたちにとってみると、学校の先生は近いんですけど、なんか怒られるっていうのが、じいちゃん、ばあちゃんと同じなんで可愛がってくれる、という形で非常にスムーズにいつてまして、今、実は彼ら彼女たちからの提言を受けて、今年度からなんです、シルバー大学校、大学院などでプログラミング講座のコースを今ICT講座って一本だったんですね。プログラミング講座のコース、彼らからの要請でスタート。本格的に学校に行ってプログラミング教育を教えられるようにしてくれる。実はアクティブシニアの皆さん方が非常に積極的にそうした話、今していただいて、やっていただくということで、実は外部人材の導入って至るところに可能性があるんですね。できればこれからもどんどんどんどん増えるアクティブシニアの皆さん、我々高齢者と呼びませんので、そうした皆さん方が学校の現場はもとより、様々な所へ資格をとって、プロフェッショナルとして入って来ていただいて、地域貢献する、場合によっては、某かのお手当をいただくと、県版介護助手なんてのは、その典型。今、保育の方での認定ですけどね。ということで、今様々な分野で、また片方ではどんどん高齢化が進む中で元気な人が多い、この皆さん方の生きがい、場合によっては、生活の少し足しにするという形を進めておりまして、我々のとくしま“あい”ランド推進協議会ですね。ですから、今の分野については様々な点でこれからの大きな課題。ただ他所の県はここまでシルバー大学校、あるいは大学院がないところも多いんですね。徳島は全国で最も歴史があるということで、全国的には徳島を一つのモデルとして横展開をできないだろうか。県版介護助手制度も今や厚生労働省、国の制度となっているところですので、我々としてもこうした点、様々な今仰っていただいた外部人材をどう無理なく導入をして、そして学校の先生方の働き方改革、あるいは子供さんたちのやる気を出すと、こうした形を作っていければと考えていますので、まさに直球ど真ん中の話を考えてくれてありがとうございます。それでは島委員さんお願いします。

<島委員>

資料を作ってきましたので、配布させていただきます。

配布までの間で喋らせていただきますが、私も教育委員にならせていただいて2年ぐらいになりますが、教育関係の職員の方々は万人ほどいらっしゃり、徳島県の中でも知事を除けば、これだけの組織を率いていらっしゃる、榊教育長をはじめ、県の皆さんの日頃の御苦勞には、本当に敬意を表しております。これだけの組織をマネジメントしていくのは本当に大変だと思いますが、改善して進んでいくことがもう少し必要なとは思っております。では配り終えられたと思うので、この提言はですね、私が中小企業家同友会の代表も務めておりますので、480人ぐらい経営者がいる会ですけども、その会の35人ほどいる理事の皆さんの御意見も入っております。保護者の方だったり、障がい者の方の支援をやっておられる方であったり、いろんな方の御意見をいただいております。一番目からですが、小中学校だけでなく民間も同じですが、男性の育児休暇取得が始まったりであるとか、コロナで欠員というのはあるかと思っておりますけれども、やはり充足率がどうなっているかということを見る化して管理していかないということでございます。二番目の中学校の部活の地域移行は、皆さんから意見がたくさん出ておりますし、改善も進ん

でいるということなので、今私からあえて申し上げることはもうないかなと思います。三番目は、私は県のキャリア教育推進協議会にも出ておりますが、なかなかインターンシップの受入企業を探してくるのも大変だという声も聞いておりますので、民間の経済団体を通じてキャリア教育推進に協力してくれる方々を増やさなきゃいけないということもあると思います。また、その場において体験するのが一番いいと思うんですが、リモートインターンシップっていうやり方もあるんじゃないかということでございます。四番目は、やはり学校・地域によってW i - F i 環境の差があるようですので、改善は進んでいっていると思いますが、さらに進めていくということですね。二枚目を見ていただきまして、五番目は、これもいろんな方が同じ経験をされておられるように聞きますが、I C T機器を使った授業などの民間委託で、進んでおられると思います。六番目は、もう民間の企業でもW e b 討論など、世代を超えて、議論して仮説を立てて実践していくことが非常に増えてきております。教育大綱にも「未知の世界に」という文言もございますけれども、今、民間企業もコロナになって、今後のあり方が問われるところなんですけども、D Xを進めていくことも、警戒を持っている方もいらっしやいます。そういう場合はやはりそれらを超えて、いろいろ議論し合って仮説を立てて実践していくってことが大事だと思いますので、そうしたアクティブ・ラーニング、これもすでに教育大綱にはありますので、それらを推進していくことが大事ではないかと思います。七番目は、高校の家庭科で投資教育が始まるそうですが、経営者も案外、初めての経営の勉強の場に来て、計算書の見方が分かりましたという方がいらっしやいますし、税金の仕組みなどを知らないまま開業して苦勞するというパターンもありますので、投資教育は投資をしてお金を増やすみたいなことも言われておりますが、最低限のお金の仕組みっていうのは授業であってもいいんじゃないかなという感じです。八番目は、先ほど、外部の方が学校に来るという話がありましたが、問題行動の裏側には、障がい起因しているとか、そういう傾向がある方もいらっしやるそうですが、教員の方々に必ずしも専門性があるわけではないということで、専門知識のある方が、学校からの要請を受けるのではなく、定期的に来て、気軽に相談できるという体制を構築した方がおそらく相談しやすいのではないかという意見も伺っております。走り走りですが以上です。

<飯泉知事>

ありがとうございます。島委員さんからは提言という形でまとめていただきまして、他の委員さんたちが言われた点も網羅されているところです。特に私の方から島委員さんにもお願いの部分なんですけど、三番目のキャリア教育の充実。非常に重要で、特に高校生なんかになりますと、その地元の企業インターンシップっていうことでやっているんですが、やはりこれを学年進行で、場合によっては、小学校、中学校、こうしたところでそうしたものを学んでいくと、しかも先ほどお話があったように、せっかくだからもうI C Tこれを普段使いしたらどうだろうかという話がありますので、リモートインターンシップこうしたやり方も逆に小学校の皆さん方だと、より良い部分があるのかなと、ぜひ民間経済団体を通じてっていう話がありましたので、中小企業家同友会の代表幹事でもあられますので、是非、まずは中小企業家同友会の皆さん方とともにやっていくことだけでもできればと、ここは榊教育長と少しお話をさせていただくとありがたいなと思っております。

あと四番目のこのWi-Fi環境。これは学校の場合ですので、回線をどれだけ太くするかって言うことがありまして、ここに実はさっきの学びの保障の時の差が生じている。これは市町村の回線の太さ。また、小中学校にどれだけの回線が走っているか。ここに格差が出てくるということがありますので、これも大変重要な点となります。これは義務教育ということがありますので、文科省にこうした点しっかりと理解いただいて、いろいろな文科省からの標準的な経費の中に入れていく、初期投資の部分、あるいは維持管理と両方あるかと思えます。ただ、大変重要なのは、この六番目の答えのない課題ということで、どうしても傾向と対策とか言って、さきに今答えを求める傾向に子供さんたちがあるんですよね。どうしてもテストでいい点を取る。テストでいい点取った子がよく勉強ができる子だっていうね。実はそうではなくて、答えが出なくても徹底的に考えるという思考を深めていく。また、そうしたことに慣れる。今の子たちって、答えのないものに対して恐れをなんか感じてるんですね。分からないって言って逃げちゃうって部分がありまして、そうじゃなくて答えがないって面白いと、徹底的にやろうじゃないかと。誰も出したことがないんだったら、それにチャレンジするんだと。私なんか自分のこと言ってなんですけど、逆に答えのないものこそ面白くてね。徹底的にそういうのを掘り下げることばかりやってたので、少し学校ではちょっと先生から見ると、うっとうしいなあっていうところがあったんですけどね。でもこれがなければ、もう社会人になったら答えがあるものなんて逆にほとんどないわけでありまして、答えのないって言うことに慣れる。そういった前にどんな思考を取ればいいのか、あるいはどういった人たちと一緒にネットワーク組めばいいのか、何も一人でやる必要はないわけですよ。そういう意味では、やはりこの価値観の共有というのが、自分の経験からよく、私もよく講演するとき言うんですけど、1+1はみんないくつだと思ってる、2、いや3という人もいると思うよ、1という人もいると思うよ。いや、0という人もいると思うよって言ったら、これ間違ってるってことだね。じゃあ1+1って書いたら、田んぼの田になるだろうって田って言ったらダメなのって言ったら、う〜んとか言うよね。そういった形で少し頭が柔らかくなっていく。それによっていろいろな自分と価値観の違う人と価値を共有し合う。そうすることによって、今まで価値観が違う人たちと組んで、新たな課題に対応できると。こうしたことをよくお話を申し上げるんですが、このディベートって言ったって日本はディベート避けるんですね。議論して喧嘩になってはいけないとか、攻撃してはいけないとか。常にそういった安全面が先に立ってしまう。でもアメリカでもヨーロッパでもディベートが無いなんてのは考えられないですね。社会人になってもそう。ということで、白熱教室ですか、ああしたものもあるわけですしぜひこうした考え方をいったものも、教育現場でいかに導入するか。でもこうなると、やはり外部人材入れないと、なかなか学校の先生、これまでやれていうのはちょっと酷な部分がありますので、非常に重要なポイントなんですけど、そのやり方どうするのか。一番ポイントになるのは、七番目ですね。実はその投資教育とか日本人って子供はもうお小遣いもらうものと。アメリカ、ヨーロッパはお金は稼ぐもの。ここは全く価値が違うんですね。ということで、今グローバル経済になって社会人になって、はたと迷う子供さんたちが非常に多い。実はこれ、我々の責任でもありますね。教育委員会ではなくて。実は銀行と我々行政が、また財務省、金融庁と一緒に組んでいる、金融教育。消費者庁も絡んでくるんですが、金融広報委員会っていうのがあって、私が実は委員長やっ

ておりました、コロナでしばらくできなかった。「楽しく学べるお金入門」というのを毎年実はやっていた。今年はやったんですけどね。リモートと今回合わせてやりました。ということで、「夏休み親子体験学習」と銘打って、私が最初にお話をして、それで面白おかしく、今回はパクンに来てもらって話をしてもらったんですけどね。こうした形で日頃からそのお金ってどういった形で流れているのか、あるいは今イベントでキッズニアっていう形で仮想の空間を作って、そこでお金を稼いで何か物を買うっていうね、徳島でもかつてアスティとくしまでこれを前やっていたんですが、このお金にまつわる教育をなるべく低学年にやらないと、今回140年ぶりの民法改正となって、成年年齢が18歳に引き下げられるということを考えると、やっぱり消費者被害に遭ってしまう。そのターゲットになるということがありますので、ぜひこうした点についてもこれは教育委員会の中でも共有をしていただいて、どんな形でこれやっていくのか。丁度この10階に消費者庁の本庁機能、新未来創造戦略本部があるわけですので、成年年齢引き下げとともにより若年から対応していく。こうした点で教育委員会でも受け止めていただければと思います。また、貴重な御提言本当にありがとうございます。それでは次に菊池委員さんよろしくお願ひします。

<菊池委員>

よろしくお願ひいたします。私が所属する徳島ビルメンテナンス協会では、特別支援学校の生徒さんを中心に、いろいろとお手伝いをさせていただいております。9月17日にアビリンピックの徳島大会が開催され、各種いろんな競技があるんですけども、まだまだ徳島県では競技内容、競技の数がなかなか増えていかないという現状であり、コロナ禍によって、参加される競技者数も少ない状況ですが、この大会で金賞を取っていただいた方に、全国大会に行って活躍していただこうというようなお手伝いをしております。そこで、できたら徳島でこの全国大会をやれないものだろうかと何年か前ぐらいから考えております。県に要望するものなのかどうか分からないところですけども、今の報告で、45.8%の方々が就職されている数字が出ておまして、いろんな職業の中で活躍している方を見ることは、とても刺激になることであったり、自分の将来や、次の段階のことを考える上でも非常に大きなことではないかと思っています。併せて言いますと、このアビリンピックと同時開催というか、同じ時期には、23歳以下の方を対象とした技能五輪全国大会もあります。小学生や中学生の方々に優れた技能を身近に触れていただける、すごく大切な良い場所ではないかなと思っています。一点にかなり集中してお話するんですけども、この大会は、香川県で2006年、16年ぐらい前に一度、四国で初めて開催されているらしくて、そうであれば徳島で近いうちに是非とも開催していただけたら、子供たちも非常に刺激を受けるんじゃないかなと思っていますので、これを実現できるよう、また検討していただけたらと思います。以上でございます。

<飯泉知事>

ありがとうございます。菊池会長さんをはじめ、徳島ビルメンテナンス協会の皆さん方はね、特に特別支援学校に入っておられる皆様方に手に職をつけるということで、特に日本で初めてみなと高等学園ここは特別支援学校、特にその頂点として作らせていただき

まして発達障害こうした皆様方に、より早期発見、早期対応、そして手に職、自立と。こうした流れをできるように、いわば支援学校の頂点として作ったところなんです、この中に徳島ビルメンテナンス協会の検定競技、これを行える会場を用意してありまして、こうした点についての指導にもお越しいただいています。また様々な資格をこの徳島ビルメンテナンス協会で取った子供さん達多くを、徳島ビルメンテナンス協会の構成メンバーの各会社が雇ってくれてるんですね。ということで、今障がい者雇用、この法定率っていうのがあるんですが、こうした点の向上をさせるという点で非常に貢献をいただいております。こうした御尽力にも心から感謝申し上げたいと思います。そこで今回いただいたこのアビリンピック、これは障がいのある子供さんたちがやはり自立、子供さんには限りませんが、様々な分野において活躍をする。その意味では様々な検定、これを受けて、そこにチャレンジしていくという方も多いわけなんです、その全国大会できないだろうかというお話をいただきました。もう一つ言われたこの技能五輪、これは若い皆さん方がその手に職、これはものすごく多くの分野あるわけなんです、これを全国大会で競っていくと、世界の高みを目指すということなんです、ものづくりには欠くことのできない、そうした技能五輪なんです、かつて徳島県でほとんど行ってなくてですね。厚生労働省、特に労働省の方から何とかならんかと直接受けました。そしてじゃあそれを県の方からも支援をさせていただいたり、職業能力開発協会の皆さん方にも是非御協力をお願いしたいという形で、この技能五輪、アビリンピックこの参加の皆さん方も、なるべくどんどん出していく。そしてまずは出発前、競技出発前の式典。こうしたものもやらせていただいて激励会やる。っていうことをすると同時に、賞を取ってきた皆さん方の後日の報告会、こうしたものもやらせていただいているんですね。ということで、確かにおっしゃるように、これだけアビリンピック、我々としても多くの皆さんの方に毎年行っていただく。また、その環境を整えると、いったことであれば、来年再来年というわけにはなかなか準備もあるのでいかないかもかもしれませんが、ぜひ香川県がやられたということであれば、四国の次に徳島でやっていくということも必要となるかと思っておりますので、そこに向けての先ほどからチャレンジを大人がせなあかんということがありますので、その次に向けてのチャレンジやってみればと考えていますので、また徳島ビルメンテナンス協会を挙げて御協力方宜しくお願い申し上げたいと思います。ありがとうございます。それでは最後に榑教育長さんからまとめと、あるいは場合によって、それぞれの委員さんから言われた点について御回答もあれば併せてお願いします。

<榑教育長>

まずは各委員の皆様方からいろいろな面で御意見いただきました。ありがとうございます。岡本委員さんからは、教育の地域格差、学校間格差が出ないようにというようなお話ですが、非常に大事なところだと思います。市町村教育委員会ともしっかりと連携しながら、学校間格差が出ないように取組を考えていきたいと思っております。河野委員さんからは、教員の働き方改革、部活動の地域移行について考えていく必要があるという御意見をいただきました。部活動の地域移行については、各モデル地域でやっていただいている成果や課題等をしっかりと把握して共有していくような取組から進めております。知事からありましたように教員の働き方改革に直結するものですので、すぐに解決する問題ではありません

んが、しっかり取り組んでいきたいと思えます。三木委員さんからは、GIGAスクール、1人1台端末の普段使いと、いじめ問題の対応方法についての具体的な御意見をいただきました。1人1台端末の普段使いにつきましては、知事からお話があったとおりだと思います。しっかり活用していく中で、見えてくるものがある。実際に子供たちの活用の方が早いので、先生方がどうやって追いついていくかということも考えていく必要があるんじゃないかなと思います。いじめ問題につきましては、もう学校だけでの対応は難しいような事案がたくさんありますので、専門家等としっかりと連携しながら、また地域の力も借りながら、チーム学校で対応していくという姿勢を確立していきたいと考えています。島委員さんからは、キャリア教育、ICT、アクティブラーニング、金融教育など、様々な御意見をいただきました。提言いただいた内容については、一つ一つどれも大事なものであると考えています。この中を見ていきますとやはり子供たちがいかに活動して、活躍していくのをしっかり支えていくのかと、新しい時代に向かって、子供たちをどうやって押し上げていけばいいのかということだと思いますので、関係機関等としっかりと連携していきながら進めていけたらと思っています。菊池委員さんからは、障がいのある子供たちが優れた技能に触れる場所であるとか、お互いに高め合う場というのをもってはどうかというお話だったかと思えます。特別支援学校の子供たちというのは、将来に向けて、自分たちの技能を高めていくだけでなく、切磋琢磨していく場面というのが必要ですので、こういうことについてもしっかり検討を進めていけたらと思っています。本当にたくさんの御意見をいただきましたが、令和元年8月に教育大綱を策定いたしまして、丸3年が過ぎました。大綱策定後、半年後にコロナ禍となりまして、この大綱はもうコロナ禍の中で、実践していくような中身だったんじゃないかなと考えています。令和2年度は二ヵ月半に及ぶ一斉臨時休業がありまして、子供たちの学びの遅れをどうやって取り戻していくのか、学びをどうやって継続させていくのかという一年だったと思います。令和3年度からは知事や議会の先生方に後押しをしていただきましたGIGAスクールが本格的に始まりまして、今、「個別的な学び」と、「協働的な学び」のハイブリッドの学びなど、令和の時代の新しい教育にチャレンジをしているところでございます。キーワードとしては誰一人取り残さない個別最適な学び。全ての子供たちが自分に合った学びを実践していくことが大事であると考えています。この3年間の成果と課題につきましては、事務局から説明をいたしましたとおりですが、皆さま方からお話があったように、学校教育に求められるものは、このコロナ禍でありましてさらに増えてきております。GX、DXを始め、消費者教育、エシカル教育、金融教育、プログラミング教育、STEAM教育など、子供たちが未来に備えていくような、それに必要な力も求められております。コロナ禍で子供たちの活動が制限されまして、我慢することも多かった一方で、子供たちが自ら行動して発信していくことは加速されてきたようにも考えています。一例を挙げますと、この資料にありましたようなエシカル甲子園、城ノ内中等教育学校・高等学校高校が全国最優秀を取りましたが、そういった活動でありますとか、知事が就任以来ずっと大事にいただいているスーパーオンリーワンハイスクール事業でありますとか、四国総体2022公開演技、これなどは専門家としっかりと話をしながら子供たちが、限られた時間、限られた空間から創り上げてきたものだったと思っています。また地元紙にも子供の活躍を多く取り上げていただいて、本当にありがたいことですが、最近では子供たちが積極的に自分の意見を発

信することが目について、すごく頼もしいなと感じています。これから子供たちに待っておりますのは、知事がいつもお話しになる3つの国難でありますとか、アフターコロナに向けた課題とたくさんあるんですけど、子供たち自身が自ら考えて行動していく、発信していくという実践でありますとか、持続可能な社会をつくっていく実践など、考えるだけでなく行動して実践していくということをしっかりサポートできるように教育委員会として環境整備していけたらなと考えています。少し長くなりましたが、以上でございます。

<飯泉知事>

ありがとうございました。今回、各委員さん方からお話をいただいた点、今、榊教育長さんからもあったように、新たな教育大綱を作るにあたってのどちらかという、本筋の議論の部分、課題の点、こうした点御指摘をいただいたのではないかと、このように思うところであります。

コロナ前に作った教育大綱、当時としては確かに先進的なものを多く入れたところがありますが、これがコロナ禍の中で通用するもの、逆に通用しなかったもの、こうしたものも多々あるわけでありますので、通用しなかったものをウィズコロナから、アフターコロナのようにしていくのか、逆に通用したものについては先ほどもお話があった、普段使いにもしてしまうと。こうした点も、大きな今後の方向性を御示唆をいただいたところがありますので、新たな教育大綱、まさに教育の羅針盤。こちらの策定につきまして、しっかりと取組を進めていければと考えておりますので、是非各委員の皆様方にもこれからも更なる高みにこれを持っていくことができますように、御示唆賜りますよう、よろしくお願いを申し上げまして、今日の議長の任を解かさせていただきます。それでは事務局のほうにバトンをお返しします。

<村山部長>

ありがとうございました。

以上をもちまして令和4年度第1回徳島県総合教育会議を閉会します。本日はどうもありがとうございました。